

# 労金カップ優勝

## …あの感動を ぜひ一度…

### 『労金カップ開催』

二〇一〇年六月五日、第十七回労金カップが洛西浄化センターの競技場（アケアパルコ）で行われた。午後からの開始となった初日の予選、強い日射しの中、一試合目は二対〇で勝利したJFC。しかし、選手たちはそれに浮かれることもなく、二試合目を圧倒的な攻撃力でものにした。

### 『勝利への力ギ』

翌日の対戦に備え、その日の締めくくりに向日市のチームとの練習試合が行われた。聞くところによると、今まで一度も勝ったことのない相手らしい。

しかしながら、気持ちのよい勝利をおさめたことが後押しとなり、結果は引き分け。強豪チームにもひけをとらない姿勢を示し、非常によい形で次の日につながる事ができた。

### 『決勝リーグ』

六月六日、日吉胡麻のラウンドにて行われた上位リーグ。なかなかムードでウォームアップを終えた選手たちは、のびのびしたプレーでリーグ初戦を突破。次に迎える相手は、昨日練習試合をした向日市だった。

### 『事実上の決勝戦』

かくして、十四時少し前に始まった向日市との一戦。どちらもゆずらない好カードとなったこの試合は、一進一退の攻防の末、一対一のまま終了。勝負の行方は、運命のPK戦へ。果たして、結果は？

### 『神・降臨』

全員が固唾をのんで見守る中、ついに始まった三本勝負のPK戦。一回目。先攻のJFCがきょちのシュートを決めた。対する向日市のシュートは、GK・ユウタロウの好セーブにより阻まれた。

二回目。JFCのシュートが決まった後、向日市のシュートはまたしてもキーパーがキャッチ。まさに神業とも思える劇的な無切に、選手はもろろん、応援席も喜びと感動に包まれた。

### 『決勝』

最後の戦いは、これまた強豪の大山崎。しかし、向日市との熱戦を制したメンバーたちは、「勝ちたい」という気持ちのもと、一丸となってプレーした。

監督やコーチ、応援席から熱い声援が送られる中、試合は二対〇のまま終盤にさしかかった。一点を入れられ追い上げられたものの、終了のホイッスルが響きわたり、長岡JFCは優勝一見事頂点の座をつかんだ。



感動が溢れだされた  
勝利の瞬間



「一同、礼!?!」  
このピリッとした整列が、若さを感じさせます。

### ☆W杯開催☆

### よみがえる 名場面

労金カップ優勝の余韻冷めやらぬ中、ついに始まった二〇一〇年ワールドカップ南アフリカ大会。事前の親善試合では、あまり結果を出せなかった日本が、快進撃をみせた。まず、カメルーンに勝ち白星でのスタートを切った。続くオランダ戦では勝ち点をあげる事ができなかったが、最後のデンマーク戦では本田と遠藤の芸術的なフリーキックがたて続けに決まり、見事予選を勝ち抜いた。決勝リーグでは、初戦の相手パラグアイに延長戦の末PKで惜敗したが、サムライたちの闘志あふれるプレーは観客を魅了し、子どもたちにも勇気と希望を与えた。



### 編集後記

記念すべきあの日から、早くも二年半が経とうとしています。私たち親子にとって、JFCとともに歩む日々は、労金カップを機に本格的に動き出しました。今回、あえてこの大会を取り上げたのは、平和堂カップの記事（向日市戦）を書いている時に、ふと以前の対戦が頭をよぎったからです。あの頃は、向日市さんも大山崎さんも、JFCにとってはなかなか強い相手でした。そんな強豪チームを相手に勝利をつかみ取ったあの日からの軌跡。それを今この時点で振り返ることで、自分とチームをより強く信じてさらに奮起してほしい。勝手ながらそう願っています。

いよいよ残り数ヶ月。一瞬一瞬を胸に焼きつけてながら、ともに過ごす時間をエンジョイしましょう。



☆この大会後に開催されたW杯も、当時を思い起こさせる貴重な出来事として掲載しています。